

Regional Branding : It's Practice and the Human Resource Development for It (5)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/28971

《研究ノート》

地域ブランディングの実践と人材育成(5)

大友 信 秀

7. 現実の活動、その継続のために必要な要素

(1) なぜ地域におけるブランディング活動は簡単ではないのか。

前回までに、地域ブランディングには地域とは異なる価値観の反映が必要であること、そのために大学生が地域と関わることには意味があることを示した¹。しかし、実際に学生が地域において活動を継続することは簡単なことではない。また、学生が関係する活動に限らず、地域における各種事業の遂行は成功しないままに自然に立ち消えることも多い。以下では、これまでの地域との関わりで見えてきた活動継続のコツを検討する。

(2) 成功のコツは継続と巻き込み。

地域におけるブランディングの成功例は、すべて、成功するまでに弛まない努力が積み重ねられた結果の上に成り立っている。地域を認知させるための継続した活動がすべての成功の裏にあるということである。小さいことをいいかげんにせず、一つ一つに最大限の労力をかけることで、活動が意味を持ち、それが積み重なることで外部に認知されるレベルに達するのである。地域における活動はたった一人の手により始まることもあり、仲間の巻き込み、外部からの評価が加わるまでは、あきらめようとする気持ちをどこまでこらえられるのか、そのような問題をどうやって克服するのか、ということを考え続けることになる。

1 大友信秀「地域ブランディングの実践と人材育成(4)」金沢法学 53 巻 2 号 141 頁 (2011)。

やりたいことが明確で、その実現への意志が堅固である場合には、孤立無援に見える者であっても、周囲が気づき易く、その結果理解者を得て、次第に集団の形成につながっていく。そのためにも、自分がやろうとしていること及びその目的を具体的に意識することが必要となる。まわりを巻き込むためには、他者に自分の思いを伝える必要があり、具体的に語れなければ、他者は具体的に理解することはできず、共感できないからである。

明確で堅固な意志を中心として多くの賛同者が巻き込まれることで活動は大きくなり、1人で行うよりも成果が出る可能性が高まる。地域活動はこのような他者の巻き込みがその継続のために不可欠であり、地域ブランディングという限定された範囲に留まらず、ブランディング自体がこのような他者への広がりが必要としている。

(3) どうやって自信を持つのか、どうやって活動を継続するか。

地域における活動においては自分の思いを実現する意思が堅固である必要があるが、意志を支えるための自信がそのためには不可欠となる。

自分への自信というものは、多くの場合、自身の過去の経験、好ましい成果に基づいている。過去にそのような経験を有していない場合、多くは、自信をもった行動に結びつけることが困難となる。また、逆に好ましくない体験、経験、失敗は、将来への新しい行動を躊躇させるよう機能することになりがちである。

地域社会において、なかなか新しい動きが生まれにくいのは、長年の人口流出、とりわけ若年層の流出により、地域が栄えた記憶がどんどん遠ざかっていることに起因する。また、地域が栄えていた時代に有していた人口が今や存在していないために、そのような過去と比較した場合に、現在の条件で十分な繁栄を取り戻すことは不可能だと考えてしまうことも一因になっている。地域には、このような過去と現在の関係を常に意識させるように、本来の目的での利用がもはやされなくなった家屋、学校というような建築物が残っている。そして、

また、衰退に入った時間があまりにも長く、地域ではもはや成功体験という過去を経験した実感が消え去ってしまっている場合が多い。

このような過去というものは変えることができないため、好ましい成果を上げてこなかった者が自信を持って行動するようになる環境というものを作り出すことはほとんど不可能にも見える。

それでは、本人に過去の成功経験がない場合には、自信を持ち、それを成功につなげるというプラスの循環は作り出せないのではあろうか。仮にそうだとすると、世の中のすべての人は成功できないということになるのではないか。誰しも、始めから成功している人はいないはずで、場合によっては失敗を繰り返し、どこかで初めて成功という結果を出すことができるはずだからである。それでは、どのような場合に、自らが成功という体験を有していなくとも自信を持つことができるのであろうか。

地域の成功体験が当該地域に暮らす者の間で共有できるように、活動集団の成功体験は共有できる。活動集団に成功体験を有している者が1人でもいれば、その者と行動を共にすることで、自らが成功体験を有するかのよう自信を持ちながら活動することが可能となる。成功経験を持つ者の行動をそのまま真似ることで他人の経験を借用し、自らの自信につなげることが可能となる。したがって、地域活動においては、何らかの成功体験（必ずしも地域活動に関する成功体験である必要はないが）を有する者の関わりが重要な鍵となる。

(4) 巻き込むためには、どうすれば良いのか。

次に検討しなければならない点として、活動への他者の巻き込みをどのように進めていくのが挙げられる。

活動を継続するためには、自発的な意志が必要となる。強制された活動は、強制として働く機能が低下するに従い、その動きをゆるめてしまう。したがって、活動への他者の巻き込みという場合にも、その巻き込む他者を強制的に活動に組み入れるのではなく、また、仮に当初はそうであっても、少なくとも最

終的には、自発的意志でその活動に関わるようにしなければならない。

地域の活動に加わる者の意志を自発的なものへと動かすためには、以下のよう
な点が重要になるものと考えられる。①活動に加わる者すべてが積極的な活
動環境を形成しており、当該集団に加わっていることで、自然と積極的に関わ
ることが当たり前を感じるような環境を作り出すこと、②活動に加わる者がそ
の前提として、活動の趣旨に共感できるように、活動の趣旨・達成目標を明確
にすること、③活動の中で明確な役割を与え、活動にとって重要な役割を担っ
ていることを実感できるようにすること、④比較的簡単にクリアできる成果を
用意し、小さな成功体験を連続させることで、自分が行っている活動に意味が
ある、もしくは活動自体が楽しいものだと思うようにすること。

以上の4点はあくまでも例示であるが、このような点に注意して活動を遂行
できる者が集団による活動のリーダーということになる。リーダーは、活動に
加わるそれぞれのメンバーが常に積極的に活動に加わるように各メンバーの観
察を怠らず、メンバー各自の自発的意志を形成する助力をしなければならない
。

(5) 行政やコンサルタントの役割

活動を継続し、周囲を巻き込み活動を拡大していくことは地域活動を行う主
体、すなわち地域で活動を行う者自身に求められるものである。しかしながら、
上述のように、活動の初期の段階に活動拡大のために周囲を巻き込むための役
割、継続するための自信を作り出すために成功事例を作り出す支援を行うとい
う役割は、必ずしも地域の主体に任せるのみではうまくいかない。このような
役割に関しては、あくまでも補助的なものとしてではあるが、行政や地域主体
ではない外部のコンサルタントが果たすべき場面も多い²。活動の初期に一気

2 石川県羽咋市神子原地区の神子原米のブランド化では、地元市役所の職員である高野誠鮮氏がローマ法王への献上、農産物直売所の設立をしかけ、住民の意識改革を成功させた。

に勢いをつけることで、他者を巻き込む雰囲気を作り、活動主体への安心感を与えることは非常に重要なことである。

行政やコンサルタントはこのような考え方から言えば、初期の段階を越えれば、できるだけ早く地域主体を中心とした者へ活動の中心を譲る必要がある。そのためにも、活動を継続してリードするリーダーを見出し、その者が活動に関して明確な成果・目標を持ち得ているかを確認していくことが必要である。地域活動はあくまでも地域の者が自らの目的意識の下に行っていくものであり、そのことが明確でなければスムーズな活動の発展を見込めないからである³。

3 石川県加賀市や加賀商工会議所は、2011年1月14日加賀市ブランド推進協議会を設立し、坂網猟（さかあみりょう）という鉄砲を使用しない手法で狩猟した天然鴨を中心に加賀の地域資源をブランド化する取り組みを行っている。ここにおいても、市の関わり方が重要な鍵となることが予想される。